

# マユミ

*Euonymus sieboldianus*

ニシキギ科

## 名前の由来

昔、この木で弓をつくったことから。「丸木弓」から転じたという説と「まことの弓」という意味だという説がある。別名、イヌエリマキ（北海道）。漢字名：真弓（檀）



マユミの実(左)と花(右)

## 形態的特徴

樹高3～5m。葉は長楕円形～楕円形で長さ5～15cm、細鋸歯縁、先はとがり、対生する。花は淡緑色で径約8mm、5～6月開花。果実は倒三角形で4稜あり、長さ8～10mm、淡紅色～紅色に熟す。4裂し、赤い仮種皮のある4個の種子が見える。9～10月成熟。

類似種との見分け方：マユミは果実が倒三角形で4稜あり、翼状にならない。ツリパナの果実は球形で、翼がない。ヒロハツリパナの果実には横に著しく張り出す4つの翼がある。オオツリパナの果実には狭い翼が5つ（まれに4つ）ある。



マユミの花



〈上〉熟す前の実。  
〈下〉熟した実



実が熟して開き、出てきた種子。4つあるのがわかる



マユミの葉。細かいギザギザがあり、先がとがる。枝に2つつ向かい合ってつく（対生）



マユミの樹形



マユミの樹皮。不規則に、浅く縦に裂ける



マユミの冬芽。3～6mm。2つつ向かい合う（対生）



マユミの枝先の葉。対生だが、写真では片方落ちているものもある

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期						■						

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）  
草花

（外来種）  
草花

哺乳類

（水辺）  
鳥類

（草原・樹林）  
鳥類  
ワシ・タカ

## 生育環境・分布

山地や原野に生える。

**分布：**国外分布は、サハリン、朝鮮。国内分布は、北海道、本州、四国、九州。北海道内分布は、全域か。

十勝地方生育状況は、全域か。

## 繁殖生態・寿命

5～6月開花。果実は倒三角形で4稜あり、長さ8～10mm、淡紅色～紅色に熟す。4裂し、赤い仮種皮のある4個の種子が見える。9～10月成熟。寿命は不明。帯広市野草園には推定樹齢25～26年のマユミがある。



実が色づき始めたマユミ。あまり大きくならず、林の中では低木層を形成する

## 他生物との関わり

不明。

## 植栽関係

土壌：埴質壤土、弱湿性、通気性は良好な場所を選ぶ、pHは耐アルカリ性、堅密度は柔らかい場所を選ぶ。光は中間性。樹齢8年で、直径3～4cm、樹高1.5m、根系の最大

深度60cm、根の広がり半径0.7m。根の支持力は中程度。移植は容易。挿し木で活着しやすい。

## 興味深い話

■庭園・公園樹、盆栽。材は緻密で堅く、将棋の駒、こけし、玩具、箱類、器具などに用いる。アイヌ民族は杓子や箸などの食器の材料として使い、汁物の多い食生活にとって欠かせないものだったという。若葉、果実は食用になるという。

■秋、林の中で実を多く付けたマユミに出会うと、ひときわ目立つピンク色に目が奪われる。果肉が裂けていたり、手でむいたりすると、さらに鮮やかな赤い色をした種が現れる。

■足寄町のアイヌ語では「カスプニ」という。

■カスプニは「杓子の木」の意。アイヌ民族はこの木で作った箸で食事をすると虫歯が治ると考えていたという。



色づいたマユミの実と  
苗作りのために種を取る子ども

## 配慮事項

樹齢8年で、直径3～4cm、樹高1.5m、根系の最大深度60cm、根の広がり半径0.7m。根の支持力は中程度。移植は容易。挿し木で活着しやすい。

### 参考文献

「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996

「新装版 樹木根系図説」苜住昇 誠文堂新光社 1987

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990

「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992

「樹木大図鑑」高橋秀男監修 北隆館 1991

「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試

験場 監修 北海道林業普及協会 1996

「北方植物園 正・続」館脇操・原秀雄 監修 朝日新聞社編 朝日新聞社 1969

「知里真志保著作集 別巻I 植物編・動物編」知里真志保、平凡社、1976

緑化樹の用土別によるさし木発根成績 吉川栄二 光珠内季報23号 p:11～p:13 1975

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ